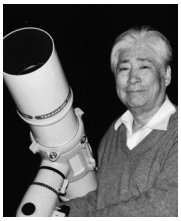
天文教育普及賞を受賞して



藤　井　　旭
〈福島県郡山市〉

このたび「天文台創設・著作・天文行事主導等，多岐にわたる天文学の教育普及」という受賞理由で，2019年度日本天文学会天文教育普及賞をいただきました．あいにく新型コロナ禍のため表彰式は中止となりましたが，賞状と盾を自宅へお送りいただき，また梅村雅之会長からお電話をいただきました．この記事では，短く自己紹介をさせていただき，写真を中心にして，いろいろな思い出を振り返らせていただきます．また梅村会長との電話のやりとりも紹介させていただいて，受賞のお礼と近況報告とさせていただきます．

自己紹介

私は1941年に山口市に生まれました．子供の頃は流星観測などをしていて，山口高等学校のときには天文部を皆と一緒につくりました．高校を卒業して東京に出てきて多摩美術大学のデザイン科へ進学，その後は星の良く見える福島県郡山市に移り住み，それまでの少年マガジンや雑誌のイラストなどの連載から足を洗い，地元の名物の薄皮饅頭屋さんで饅頭づくりに精を出し暮らすことになりました．

写真1　（左）白河天体観測所の所長犬チロと．（右）白河天体観測所・チロ天文台のステッカー．

白河天体観測所とチロ望遠鏡

その後，星仲間たちと一緒に那須高原に白河天体観測所をつくりました．台長は私の飼っていた北海道犬のチロにやってもらうことにしました（写真1）．熊の番犬というほどの意味あいのものでしたが，実際，熊を撃退してくれたこともあり，所長として12年間その任務を果たし大活躍してくれました．白河天体観測所・チロ天文台のステッカー（写真1右）は，チロ望遠鏡を覗いた人たちに観望記念に配られ大人気でした．白河天体観測所は，国立科学博物館（当時）の村山定男先生や小山ひさ子先生ら星仲間たちと語らい，噴煙を上げる那須の山並みを臨む高原の一隅に「星の山荘」として，アポロ11号が月面に降り立った1969年に完成させました（写真2）．

福島県の磐梯吾妻スカイライン山頂で，チロの星まつり「星空への招待」も開きました．全国から集まった天文ファンにチロは歓迎の挨拶をしてくれました（写真3）．手作り84 cmチロ望遠鏡が，天文ファンたちの手によって「星空への招待」会場で移動用として組み立てられました（写真4）．チロ望遠鏡は車で牽引できるようにし

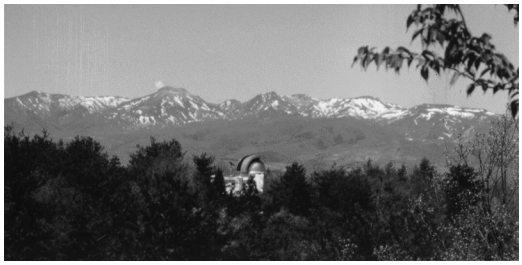


写真2　白河天体観測所遠望.

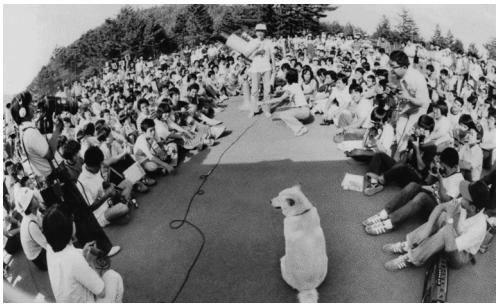


写真3　チロの星まつり「星空への招待」でファンに歓迎の挨拶をするチロ.

写真4　手作り84 cmチロ望遠鏡.

写真5　富士山の麓を行くチロ望遠鏡.

写真6　大人気のハレー彗星キャラバン.

て，全国どこへでも出かけられるようになりました（写真5）.

ハレー彗星が来た時には，北海道から九州まで出かけ，地元の天文ファンたちと協力してハレー観望会を開催．大人気でした（写真6）.

チロ天文台南天ステーション

あこがれていた南半球の星空を楽しむために，チロ天文台南天ステーションも現地の星仲間たちと協力してつくりました．写真7は，探査機ジョットが頭部に突入した時の地球から見たハレー彗星をオーストラリアでとらえた姿で，私の自慢のショットの一つです．口径50 cmの反射望遠鏡を手作りし，「日本ハレー協会」との共催でオーストラリアへ日本航空のジャンボ3便で送りこみ，大勢の日本のハレーファンの人たちにその姿を楽しんでもらいました（写真8）.

また，およそ400年ぶりに大マゼラン雲中に出現した2.9等の肉眼超新星をカンガルーたちとオーストラリアの砂漠で見上げたのも，私の星空生活のハイライトの一つで自慢でした（写真9）．そして，この写真を小柴昌俊先生に「これがニュートリノをまき散らした張本人です」と御覧に入れましたら「ほぉ…」と面白がられました.

天文雑誌『星の手帖』の編集委員をしていた時，超新星1987Aのカミオカンデのニュートリノキャッチのニュースに，ノーベル賞間違いなしと，

写真7　ハレー彗星.

写真8　オーストラリアでのハレー彗星観望会.

写真9　超新星1987Aの出現（1987年5月3日）.

編集長の阿部昭さんと勝手に判断．小柴昌俊先生と古在由秀先生の対談を企てました（写真10）．「わしは落第をくりかえしたので，古在君より齢

写真10　ノーベル賞対談：小柴昌俊先生（右）と古在由秀先生（左）.

写真11　チロ天文台上空のC/2006 P1マクノート彗星（2007年）.

上だったのに結局同級生になってしまったんじゃ，ワハハハ…」と学生時代の思い出話に花が咲き，記事をまとめるのに大弱りさせられてしまいました．小柴先生のノーベル物理学賞受賞はそれから十数年後のことになりました．

その他，オーストラリアでは，史上最大級の白昼でも見えるC/2006 P1マクノート大彗星が登場．最上級の夜空で目にしたいと願っていたので，素晴らしい光景を目の当たりにすることができ大満足でした（写真11）．

いろいろな思い出

天体写真についての本や写真集も，いろいろ出させていただきましたが，その中に収録されている星座絵図や天体写真など，他にやってくれる人もなく，致し方なく全部自分で手がけるはめに

写真12　高野山での天体観望会.

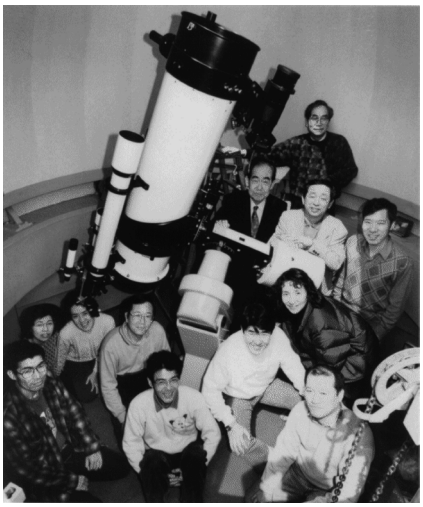


写真13　宇宙飛行士・土井隆雄さん（中央）の帰還歓迎会.

なってしまいました.

またお坊さんたちにも星を眺めてもらおうと高野山へも出かけました．小まわりのきく小型の50 cmチロ望遠鏡も活躍してくれました（写真12）．また星仲間の土井さんがスペースシャトルに搭乗，その帰還歓迎会も白河天体観測所の星仲間たちとにぎやかに開き，そのみやげ話に大盛り上がりとなりました（写真13）.

また，山形県に落下した大火球とその隕石捜索を星仲間たちとくりひろげ，民家に眠っていた永井隕石と天童隕鉄の2個を見つけ出して確認したのは

写真14　チロの隕石大捜索団.

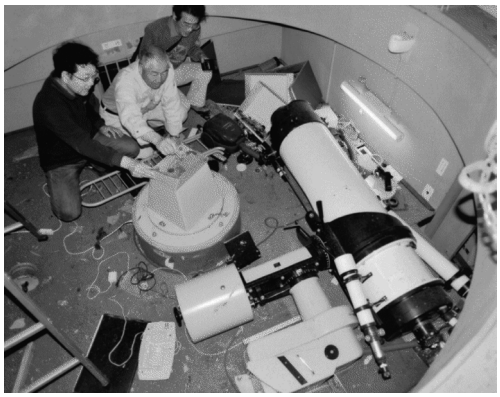


写真15　東日本大震災による白河天体観測所の惨状.

お手柄でした．熊の出没には困らされましたがチロ団長が撃退に活躍してくれました（写真14）.

白河天体観測所は，2011年3月11日の東日本大震災の激震と福島第一原発の大爆発からの大量の放射線を浴びたことによる甚大な被害のため，およそ50年間の活動に終止符を打ち店じまいとなりました（写真15）．その後の活動の拠点はオーストラリアのチロ天文台へ移っています.

このように，天文学とは何の関係もなしに面白半分に星空を見上げ星好きの連中とただにぎやかに，いろいろなことを楽しみながらやってきただけなので，このたび天文学会から賞をいただいて，大変恐縮，うろたえ驚いています．むろん，これは星仲間たちみんなへのおほめの言葉と受けとっております.

梅村会長とのお電話

梅村会長から，2020年10月22日に自宅へお電話をいただきました．天文学会の方で文書におこしていただきましたので，受賞のお礼の言葉と近況に代えてご紹介いたします．

梅村「もしもし，わたくし日本天文学会の会長をしております梅村と申します．藤井さんですか．初めまして．」
藤井「藤井です．賞をいただき恐縮しております．」
梅村「本来なら3月にお越しいただいて，学会として賞状を正式にお渡しいたしたかったのですけれども，こういう状況ですので直接お会いできなくて．」
藤井「そうですね，こちらは少し遅れて今が新型コロナ感染の最盛期なんですよ．いろんな人が見えるもんで，そうなるんでしょうけどね．」
梅村「藤井さんは体調の方はお変わりありませんか．」
藤井「ええ，年寄りは怪しいんで外に出ないようにしてるんです．別に格別のことはありません．」
梅村「手紙でお返事をいただいた時に，天気の良い日は写真を撮りにでかけているということで」
藤井「ええ，山には夜出かけても人は居りませんので，これは感染の心配はないということで，晴れたら時々出かけて行って見上げるようにはしています．まあ出会うのは熊くらいなもんで人間には出会わないんで大丈夫です．」
梅村「（笑）今も熊は出没注意ですからね．」
藤井「今年は多いんですよ．」
梅村「気をつけていただいたほうが良いですね．」
藤井「ええ．」
梅村「ちょっと私事の話になってしまって恐縮なんですけれども，高校生の時に藤井さんの写真集『星空の四季』[1]というのがありますよね，あれを買って，大好きでいつもずっと見て，時々望遠鏡を持って外に出て観望したりしてたんですよ．」
藤井「そうですか（笑）」
梅村「実はそれがきっかけで私，天文をやるようになったんです．」
藤井「そうでしたか．」
梅村「ある意味，藤井さんのおかげですね．」
藤井「そうなんですね，ははあ．」
梅村「特に本の中のアンドロメダ銀河の写真がすごくきれいでしたよね．あれは今でも使っていますよね．」
藤井「そうですか．まあ今はもっと進化していますんで．」
梅村「今は進化しているのですけど，あれは私としては思い出に残る写真集で．見させてもらって．」
藤井「それはお役に立ったかもしれませんね．」
梅村「そういうこともあったんで，今回ぜひお会いして賞状をお渡しできる特権を得ていたので，その特権を楽しみにしてたんですけど（笑）．」
藤井「ああそうでしたか．」
梅村「ええ，残念ですね．」
藤井「今こちらはマスコミを含めて結構大変な状況なんで，気をつけないと，と皆さんで言っているんですけどね．しようがありませんね．」
梅村「そうですね．まあ学会としては昨年度から天文教育普及賞というのを設けてですね，天文に貢献された方を表彰する形にしていて．」
藤井「ああそうですか．」
梅村「藤井さんの場合には皆さん満場一致で，むしろ表彰するのが遅いくらいで．」
藤井「何も……．もっとちゃんとした方を表彰してあげるのが良かったんじゃないかと思ってます．」
梅村「いやいや．今でも写真を撮られているということで私も嬉しいですね．」
藤井「いや，もう他にすることもありませんのでね．まだ徹夜をするくらいの体力はあるんですけど．まあそのうちぽったりいなくなるかもしれません．」

梅村「いやいや，ご健康だとお聞きして安心しました.」
藤井「医者にかかるというようなことはやめにしておりまして．あるがままということで.」
梅村「まあこんな形ですけどもお話しできたので私も嬉しく思います.」
藤井「私も国立天文台の方に出かけられるとは思いませんので．こんなことになるとは思わなかったもので.」
梅村「賞状と副賞が届いたかと思いますけれども御覧いただいていますか.」
藤井「立派なもんが来たんで，どうしようかと.」
梅村「クリスタルの方は中にレーザーで加工が施されていて.」
藤井「そうですね．最初何があるのかわからなかったんですけどね．見覚えのある形だなあと思っているうちに，ああこれは天の川だ，としばらくして気がついたんですよね.」
梅村「まさしく藤井さんの写真集にもあるような天の川が彫られています.」
藤井「このところ星の仲間の集まりがありませんので，今度解禁になったら見せびらかしてやろうと思います.」
梅村「ええ，ぜひそうしてください．もしその時に写真などお撮りになることがあったら，何かしらの形で送っていただけるとありがたいのですけれども.」

写真16　お祝いの電話をかける梅村会長.

藤井「いつになるかわかりませんが，お礼をしたいと思います.」
梅村「いつとはいわず，もしそういうことがあったらお願いします.」
藤井「わかりました.」
梅村「今回はどうも突然のお電話で申し訳ありませんでした．この度はおめでとうございます．この先もよろしくお願いいたします.」
藤井「わざわざありがとうございました．こちらこそよろしくお願いいたします.」

参考文献

[1] 藤井旭, 1973, 星空の四季（誠文堂新光社）